

「地域リハビリテーション係」の設置

— 桑名市行政リハビリテーション専門職交流会 —



本物力こそ桑名力

桑名ブランドキャッチフレーズ
ロゴマーク

他ではまねできない、桑名ならではの
たくさんの“本物”を見つけ出し、
磨き上げ、より素晴らしいものにしていく
力を「本物力」と名付けました。

木曾三川が流れ込む桑名を
桑名城の形状であった扇の要と見立てた
イメージ等を桑名のイニシャルである
「K」のマークで表現しました。

平成27年3月27日

桑名市副市長

田中謙一

行政リハビリテーション専門職相互間の経験交流の必要性

- 「地域包括ケアシステム」の構築の一環として、「地域リハビリテーション」の推進が求められるところ。
- 「地域リハビリテーション」は、「地域におけるリハビリテーション」のみならず「地域に対するリハビリテーション」も意味する概念。



- 行政リハビリテーション専門職については、
 - ① 対象者の年齢や状態を問わず、「オール・ラウンド」でリハビリテーションに取り組む能力
 - ② 地域課題を抽出し、その解決に資する地域資源を創出する能力を身に付けることが求められるところ。
- 行政リハビリテーション専門職相互間の経験交流が重要。

「まずは、桑名市にいるセラピストどうしの情報交換の場が必要。年齢や状態により担当制をひいている業務分担をしている行政ほど、他分野との情報交換が必要。でなければ、市民を切り分けして捉えてしまう危険性が出てくる。情報交換の場があり、それぞれの担当分野の課題や役割を共有することがどんな分野にも対応する力を作ることになる。」

行政リハビリテーション専門職相互間の経験交流に対する期待

- ① 高齢者か子どもかを問わず、
自立支援に資する地域づくりに取り組むため、
行政の保健センターや療育センターに配置された
リハビリテーション専門職の業務の現状及び課題を共有すること。
- ② 地域における急性期から回復期を経て維持期へ至る
医療機能の分化・連携が推進されるよう、
リハビリテーション専門職団体等と連携しながら、
地域の医療機関や介護事業所に配置された
リハビリテーション専門職の業務の現状及び課題を共有すること。



- リハビリテーションに関する専門性を有する行政官として、
「地域リハビリテーション」の推進のための政策を地域に展開。

①大阪府大東市 ～住民主体の介護予防～

○住民が主体となって取り組む介護予防事業を市内全域で展開している。虚弱高齢者が元気高齢者の支えで元気を取り戻し、小学校の下校時の見守り隊に参加するなど社会活動が広がっている。

○介護予防活動を通して、見守りや助け合い等地域の互助の力が育っている。

基本情報（平成25年4月1日現在）

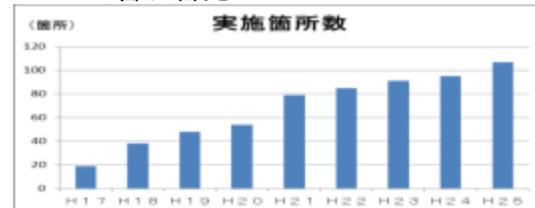
※人口は平成24年3月31日

地域包括支援センター設置数	直営	0	カ所
	委託	3	カ所
総人口		123,573	人
65歳以上高齢者人口		26,697	人
		21.6	%
75歳以上高齢者人口		10,516	人
		8.5	%
第5期1号保険料		4,980	円



介護予防の取組の変遷

- 平成16年度に地域ケア会議で町ぐるみの介護予防の必要性を提言
- 平成17年度に虚弱者も参加できる「大東元気でまっせ体操」を開発し、一次・二次予防対象者の枠組みにとらわれず、自治会、町内会単位で住民主体での活動の場の普及に取り組む
- 老人会のイベント等で介護予防について普及啓発
- 住民主体の活動の場の育成及び世話役を養成
- 体操教室後に民生委員、校区福祉委員、世話役が集合。地域の虚弱高齢者情報を共有し、具体的な対策を検討する

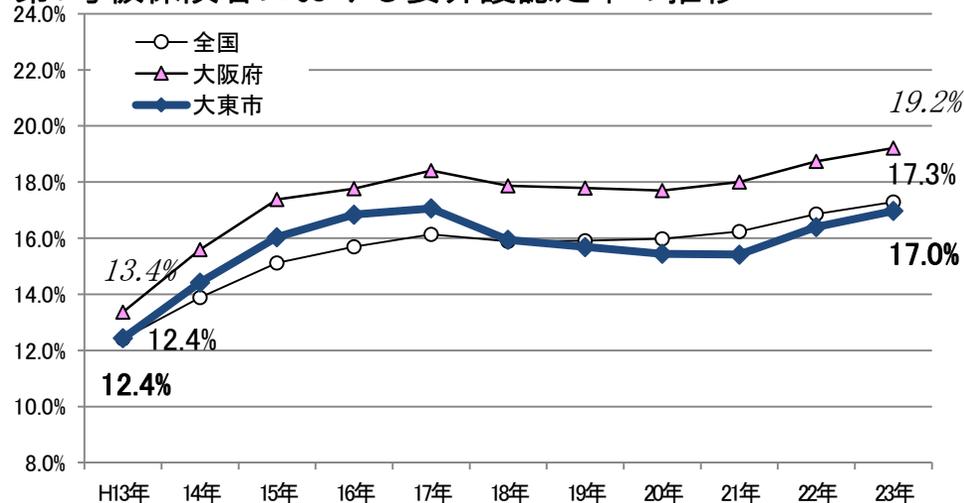


65才以上高齢者のうち毎月参加している者の割合	9.3 %
-------------------------	-------

65才以上高齢者のうち二次予防事業対象者である参加者の割合	2.7 %
-------------------------------	-------

※要支援1～要介護5の高齢者163人が含まれる。

第1号被保険者における要介護認定率の推移



専門職の関与の仕方

- 介護予防の啓発は保健師とリハ職のペアで行う
- 体操教室の立ち上げの際には体操指導と体操ビデオの提供及び世話役の育成を保健師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士が行った
- 身体障害や関節痛により体操を同じようにできない方に対しては、市のリハ職が訪問し、痛みがでない運動法を指導した
- 認知症や高次脳機能障害、精神障害などで集団活動に不具合が生じた時には地域包括支援センター職員が出向いて、認知症の方への対応方法を世話役に指導した
- 世話役から活動の脱落者について地域包括支援センター職員に連絡が入った場合には、職員はその原因を明確にした上で個別に対応する（例：認知症の方への対応、不仲の場合には教室の変更）

②岡山県総社市 ～徒歩圏内に住民運営の体操の集い～

元気な高齢者と要支援・要介護認定を受けている高齢者が一緒に行う住民運営の体操の集いが、公民館や個人宅で、毎週1回開催されており、平成25年現在、市内全域に110会場が誕生し、徒歩圏内で参加できるようになっている。

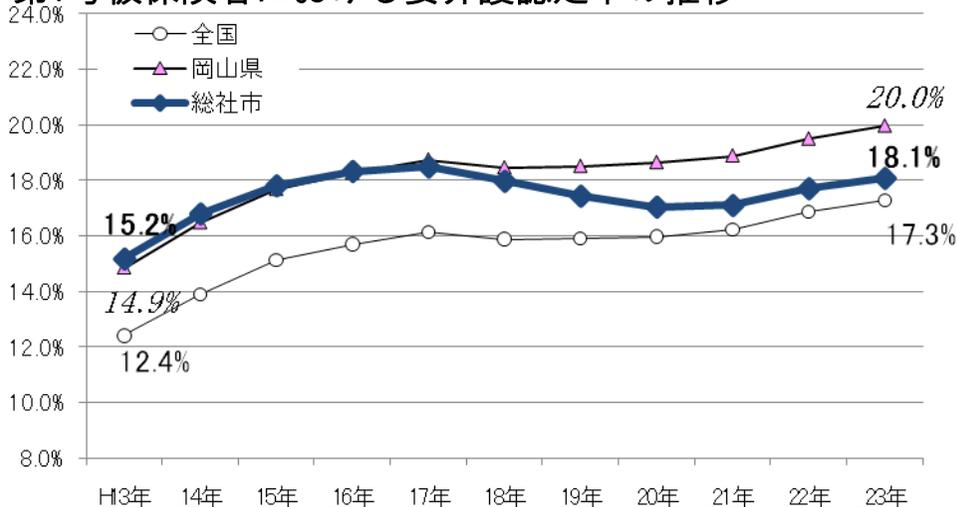
基本情報（平成25年4月1日現在）

※人口は平成24年3月31日

地域包括支援センター設置数	直営	0	カ所
	委託	6	カ所
総人口		66,861	人
65歳以上高齢者人口		16,017	人
		24.0	%
75歳以上高齢者人口		8,226	人
		12.3	%
第5期1号保険料		4,700	円



第1号被保険者における要介護認定率の推移



介護予防の取組の変遷

- 〈平成12年〉要介護認定の非該当者の受け皿として、「健康づくりの集い」を介護予防教室として実施。（作業療法士・理学療法士・保健師主導、月1回、17会場）
- 〈平成17年〉小学校区単位で小地域ケア会議を開始。住民・社協・ケアマネ・保険者等の意見交換の場として定着。
- 〈平成20年〉地域包括支援センター（当時直営）が、小地域ケア会議に働きかけ、各地区で週1回の体操の集いが始まる。
- 〈平成24年〉ケーブルテレビ等の各種媒体で市民に広報した結果、100会場まで増える。

H24年度参加実人数	高齢者人口に占める割合
1,535人	9.6%



※要支援1～要介護4の高齢者88人が含まれる。

個人宅での体操の集い

専門職の関与の仕方

- 地域包括支援センターの3職種が事務局（H24.4より委託）、行政の保健師・理学療法士は一委員として、市内21地区で1～2ヶ月に1回開催される小地域ケア会議に参加し、一緒に地域の課題を話し合う。
- 体操の集いの立ち上げ時には、行政もしくは地域包括支援センターの専門職が体操を具体的に指導。
- 集いの全ての会場で年1回体力測定を実施。随時、利用者の変調について住民から情報が入るので、専門職がアセスメントと助言指導を行う。

「地域リハビリテーション係」の設置

- 行政リハビリテーション専門職は、健康増進や介護予防のほか、母子保健や療育も含め、幅広い分野で地域に貢献する役割を果たすべき貴重な人材。
- 「地域におけるリハビリテーション」のみならず「地域に対するリハビリテーション」も意味する概念である「地域リハビリテーション」の推進が求められるところ。



- 平成27年4月、桑名市において、すべての行政リハビリテーション専門職を集中的に配置し、地域医療の他、健康増進、介護予防、母子保健、療育等のすべての行政分野におけるリハビリテーションに関する業務を分担する「地域リハビリテーション係」を保健福祉部地域医療課に設置。
- この場合においては、行政リハビリテーション専門職の役割について、
 - ① 自らサービスを提供する「プレイヤー」から
 - ② 地域住民による自発的な活動や参加を働き掛ける「マネージャー」へと転換。

「地域包括ケアシステム」の構築は 「全員参加型」で「2025年問題」を乗り越えるための 「地域支え合い体制づくり」です。

桑名市市章



水と緑が交流の輪を描く様子を表現し、その中央にハマグリの姿を描き、市の文化や歴史をイメージしました。

円満に発展し快適で住み良い桑名市を象徴しています。



桑名市 イメージキャラクター 「ゆめはまちゃん」

「はまぐりのまち・桑名」をPRする夢見るはまぐりの女の子です。

洋服の三本線は、木曾三川をイメージしています。

桑名市における「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、 「オール桑名」で一步一步着実に取り組みましょう。